

---

# 各地発掘・回収事業

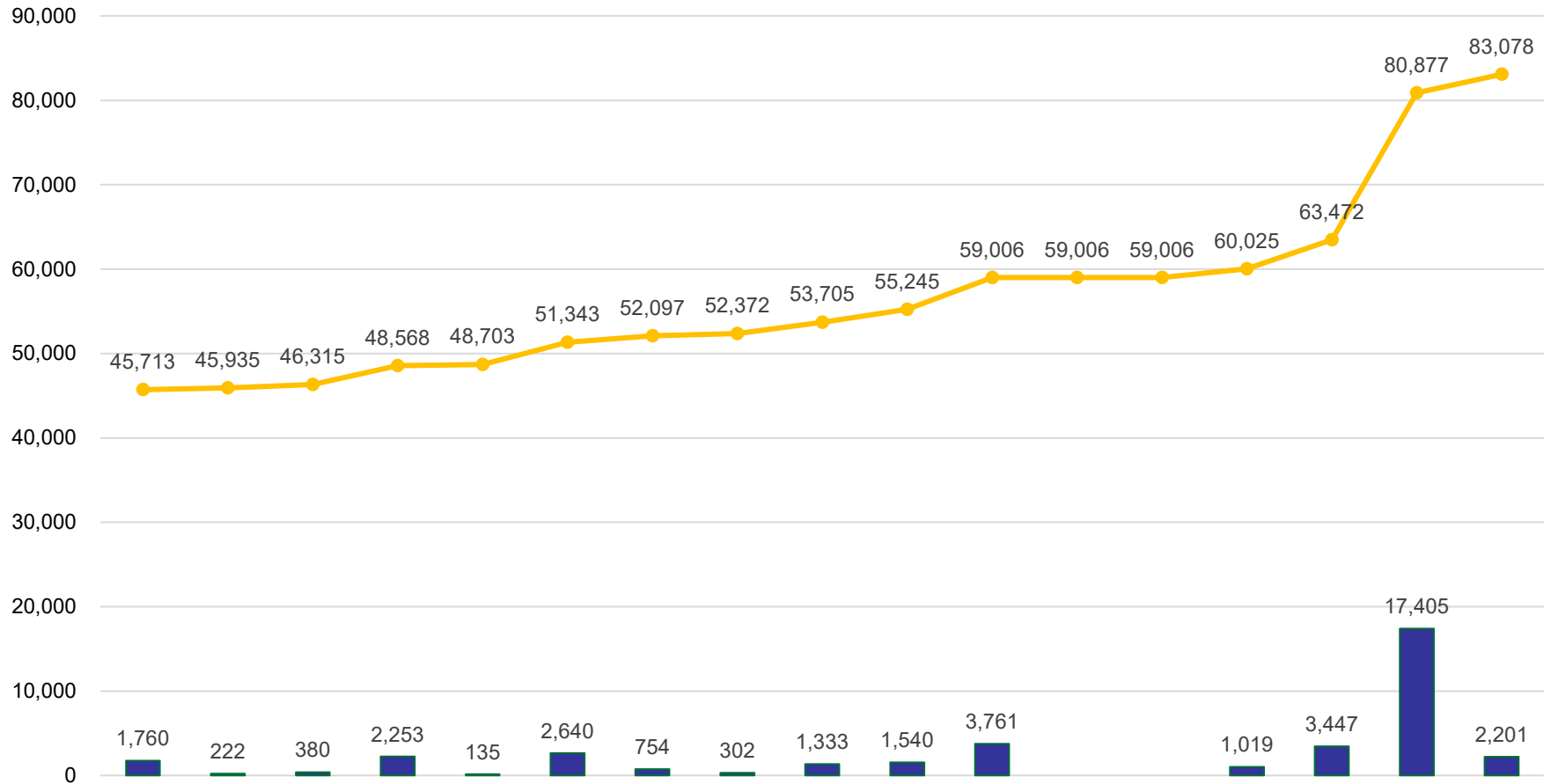
---

# 3. 各地発掘・回収事業

## (1) 発掘・回収数の実績推移

【単位：発】

(2026(令和8)年3月現在)



年度	~2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
各年度 回収数	1,760	222	380	2,253	135	2,640	754	302	1,333	1,540	3,761	0	0	1,019	3,447	17,405	2,201
累計 回収数	45,713	45,935	46,315	48,568	48,703	51,343	52,097	52,372	53,705	55,245	59,006	59,006	59,006	60,025	63,472	80,877	83,078

## (2) 牡丹江市発掘・回収事業

### 1 事業の経緯等

2022 (R4) 年度

中国側からの砲弾発見の通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、  
遺棄化学兵器の存在を確認

2023 (R5) 年度

7月～9月、内閣府にて発掘・回収事業を開始

2024 (R6) 年度

4月～9月、計3回の発掘・回収事業を実施

2025 (R7) 年度

6月～9月、計2回の発掘・回収事業を実施

これまでの発掘・回収事業で、遺棄化学兵器と確認された砲弾等21,375発を発掘・回収した。

### 2 事業の特徴

1個の区画(20m×20m)において1,000発を超える砲弾等が発掘される等、他の事業に比して非常に多くの砲弾が発掘された(2024年度)。現在残る地域は、砲弾の数量は減少したものの、土塁を有する地域となり、大量の土砂の内部を確認しなければならず、時間を要す。

### 3 今後の予定等

- 2026 (R8) 年度においては、6月～7月に発掘・回収事業を実施する予定
- 廃棄計画を踏まえ、可能な限り速やかに発掘・回収を完了することを目指して最善の努力を払う。



# (3) 伊春市発掘・回収事業

## 1 事業の経緯等

- 2022 (R4) 年度 中国側からの砲弾発見の通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、  
遺棄化学兵器の存在を確認
- 2023 (R5) 年度 10月～11月、内閣府による発掘・回収事業を開始
- 2024 (R6) 年度 10月～12月、発掘・回収事業を実施
- 2025 (R7) 年度 4月～5月、10月～12月、計2回の発掘・回収事業を実施
- これまでの発掘・回収事業で、遺棄化学兵器と確認された砲弾等**396発**を発掘・回収した。

## 2 事業の特徴

ダム底に溜まった鉱滓の下(地表から約8m～10m)にACWが存在するため、当初はパワーショベル等による鉱滓の除去が必要であり、他の事業に比して土木重機の所要が多い事業

## 3 今後の予定等

- 2026 (R8) 年度は、4月～5月、10月～12月の計2回の発掘・回収事業を実施予定
- 廃棄計画を踏まえ、可能な限り速やかに発掘・回収を完了することを目指して最善の努力を払う。



# (4) 敦化市発掘・回収事業

## 1 事業の経緯等

2023 (R5) 年度

中国側からの砲弾発見の通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、  
遺棄化学兵器の存在を確認

2024 (R6) 年度

10月、内閣府による発掘・回収事業を開始

2025 (R7) 年度

4月～5月、10月～11月、計2回の発掘・回収事業を実施

(10月～11月の事業は、下記発掘予定地域外の急を要する地域を実施)

これまでの発掘・回収事業で、遺棄化学兵器と確認された砲弾等**69発**を発掘・回収した。

## 2 事業の特徴

当初、発掘予定地域になり得るのは約3.5haの広さと見積もられたが、外務省の現地調査により約25haの広大な面積(一部に住民が生活する集落内を含む。)が発掘予定地域として指定。

## 3 今後の予定等

○ 2026 (R8) 年度においては、8月～9月に発掘・回収事業を実施する予定

○ 廃棄計画を踏まえ、可能な限り速やかに発掘・回収を完了することを目指して最善の努力を払う。



# (5) 松花江（佳木斯（ジャムス）地区）発掘・回収事業

## 1 事業の経緯等

- 2006 (H18) 年度 中国側からの通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、遺棄化学兵器の存在を確認
- 2007 (H19)～2014 (H26) 年度 内閣府による各種調査（磁気探査、河川深浅測量、地質調査等）を実施
- 2015 (H27)～2019 (R1) 年度 試掘事業を実施し、締切工法、潜水工法による発掘及び探査技術等を検証
- 2019 (R1) 年度 2018 (H30)年に柳樹島近傍で一時露出した砲弾の緊急回収
- 2020 (R2)～2021 (R3) 年度 潜水工法の改善・改良及び探査の効率化のための国内試験を実施
- 2022 (R4) 年度 本格的発掘・回収事業を開始（潜水工法）
- 2023 (R5)～2024 (R6) 年度 潜水工法による発掘・回収事業を実施
- 2025 (R7) 年度 潜水工法及び締切工法による発掘・回収事業を実施

これまでの試掘及び発掘・回収事業で、遺棄化学兵器の可能性のある砲弾等**378発**を発掘回収した。

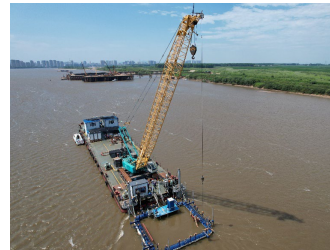
## 2 事業の特徴

松花江は、アムール川最大の支流で、長白山より発し、南から北に流れる河川。長さは1,927km、流域面積は212,000km<sup>2</sup>、事業対象区域における最大河川幅は700m。水深は深く、流速は早い上、河川の透視度は数cmであるため、発掘作業には困難を伴い、技術的に解決すべき課題が多い。

冬季の凍結、夏季の増水のため、現在の装備で事業が実施できる期間は4月下旬から8月上旬。

## 3 今後の予定等

- 2026 (R8) 年度は、4月から潜水工法による発掘・回収を実施予定。
- 作業期間延長のため、2024 (R6) 年度から新型の作業台船造船に着手。2027 (R9) 年度から運用開始予定



2026年度計画	2026(令和8)年度					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
発掘・回収事業	潜水工法					

# (6) 尚志市発掘・回収事業

## 1 事業の経緯

2013(H25)年度

中国側からの砲弾発見の通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、遺棄化学兵器の存在を確認。内閣府にて緊急発掘・回収事業を実施

2014(H26)年度

埋没範囲の状況調査のため、外務省が改めて現地調査を実施

2015(H27)～2018(H30)年度

内閣府にて発掘・回収事業を実施

2022(R4)年度

発掘・回収事業再開

2023(R5)年度

発掘・回収事業実施

これまでの発掘・回収事業で、遺棄化学兵器の可能性のある砲弾等833発を発掘回収した。

## 2 事業の特徴

現地調査の結果、約423haの広範囲な地域の各所に砲弾埋没に係る情報があり。

## 3 進捗状況・今後の予定等

2026(R8)年度は、発掘・回収作業の予定なし。

尚志の位置



発掘作業の状況



外観鑑定の状況



# (7) 琿春市発掘・回収事業

## 1 事業の経緯

2008 (H20) 年度	中国側からの砲弾発見の通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、遺棄化学兵器の存在を確認
2012 (H24) 年度	内閣府にて発掘・回収事業を開始
2013 (H25) 年度	アクセス道路完成
2013 (H25)～2017 (H29) 年度	引き続き、内閣府にて発掘・回収事業を実施
2022 (R4) 年度	発掘・回収事業再開
2023 (R5) 年度	発掘・回収事業実施

これまでの発掘・回収事業で、遺棄化学兵器の可能性のある砲弾等**934発**を発掘回収した。

## 2 事業の特徴

現地調査の結果、約78haの広範囲な地域を指定。夏季の降雨と冬季の降雪は作業期間・実施に影響を及ぼす。

## 3 進捗状況・今後の予定等

2026 (R8) 年度においては、8月～9月に発掘・回収事業を実施する予定





## (9) 北安市発掘・回収事業

### 1 事業の経緯

2023 (R5) 年度

中国側から砲弾発見の通報

2025 (R7) 年度

通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、遺棄化学兵器の存在を確認

### 2 事業の特徴

トウモロコシ畑に挟まれた農道（幅約3m、長さ約100m）の基礎部分（深さ50cm～1m程度）に砲弾等が存在。

### 3 今後の予定等

2026 (R8) 年度においては、10月～11月に内閣府による発掘・回収事業を実施する予定



# (10) 集安市発掘・回収事業

## 1 事業の経緯

2025 (R7) 年度 中国側からの砲弾発見の通報に基づき、外務省が現地調査を実施し、  
遺棄化学兵器の存在を確認

## 2 事業の特徴

コンクリートの材料として集めた砂利の中に砲弾等が存在。

## 3 今後の予定等

2026 (R8) 年度においては、4月～5月に内閣府による発掘・回収事業を開始し、6月～7月、  
10月～11月の計3回の発掘・回収事業を実施する予定

